

私のとっておき 長浜



全長寺の大杉と帰り道

藤原 周二さん (余呉町池原)



藤原さんとご家族
彩人ちゃん(手前)・成寿くん(右)・周二さん(奥)

このコーナーは、市民の皆さんのとっておきを紹介する市民情報交流コーナーです。市内の風景、場所、食べ物など、あなたの「とっておき」を紹介してください。市民広報室まで(☎65-6504) ※営利を目的とした利用はできません。

全長寺の門前に樹齢約500年の大きな杉の木があります。賤ヶ岳の戦いより以前からこの地域を見守ってきたことを思うと、雄大さと安らぎを感じます。

境内には桜や紫陽花・もみじなどが植えられ、四季折々の景色が目を楽ませてくれます。

時々休みの日に子どもと訪れ、自転車の練習や野球ごっこなどで心を通わせた後、家まで掛けっこをしながら帰ります。この帰り道は子どもの頃、兄と暗くなるまで同じようにサッカーボールで遊び、お腹を空かせて帰った道です。

住民同志のふれあいや絆を感じられ、思い出が詰まったここ池原での暮らしを大切にしたいです。



9月14日(土)

「ありがとう」の気持ちを込めて

11月の新築移転に伴い、間もなく閉館となる南郷里公民館の壁に地域の子供達が絵を描きました。「土曜学び座」として開かれたこの催しには、南郷里小2～6年生33人が参加。

子ども達はまず、チョークを使って等身大の自分を壁に写し取り、その後赤・青・黄の3色の絵具から思い思いの色を作りだし、顔や服を描いていきました。

子ども達が「ありがとう」の気持ちを込めて描いた壁の絵は、10月末の閉館まで見ることができます。



9月15日(日)

地域の大切な祭り

朝日山神社一帯で「放生会」が開催され、地元の小中学生約100人が、元気な掛け声とともに神輿を担いで自治会内を巡りました。拝殿で行われた本祭では、可愛い巫女さんが浦安の舞を奉納。境内の土俵では子ども相撲が行われ、元気でたくましい取組に周りから歓声と拍手が送られました。

恒例の総踊り大会も行われ、地域の人たちが祭りを存分に楽しみました。

ながはま 見聞録

Nagahama Hotnews

このコーナーは、長浜の見どころ、市民の皆さんの活動の様子やまちで見かけたほっとな話題を紹介し、あなたが知っている旬の話題などがあれば、市民広報室(☎65-6504)までお知らせください。市公式Facebookページではさらに詳しくみることができます。

<https://www.facebook.com/nagahama.hotnews> 「長浜 ほっとにゅーす」 検索

8月31日(土)・9月1日(日)

笑う門には福来る！みんなで笑いました

残暑を笑いで吹き飛ばそうと、余呉地域づくり協議会が菅並・中河内両地区で「お楽しみ演芸会」を開きました。

生の演芸に親しむ機会の少ないこの地域で「お楽しみ演芸会」が始まったのは昨年のこと。当日は、地元住民50人ほどが集まり、腹話術やパペット落語、大道芸などを楽しみました。

菅並自治会の嵐辰夫会長は、「久しぶりに大勢で笑って過ごせたのがよかった」と喜びを語りました。



9月1日(日)

命をつなぐ献血にご協力を

輸血用血液の不足に対応しようと「湖北長浜1000人献血夏の陣」が長浜楽市東側駐車場で開かれました。

会場では400ml献血や骨髄バンク登録、がん検診の紹介のブースが設けられたほか、ヨーヨーつりや、スーパーボールすくいなど、親子連れが楽しめるアトラクションや、献血すると無料で利用できる飲食模擬店が並び、多くの人で賑わいました。

1000人献血の会の田中猛士代表は「親子連れに来てもらい、幼いころから献血の意義に触れてほしい」と話しました。

9月6日(金)

長寿の秘訣は、前向きな心です

敬老の日を前に、市内男性最高齢者の福永勝實さんを市長が訪ねました。「もちが好物で、毎朝お雑煮を食べるのが習慣です」と言う、福永さんは御年103歳。

市政施行前の神照役場に奉職した後、戦争でビルマなどに派遣、戦後の市役所勤務では、市のまちづくりに尽力されました。

今は週2回のデイサービスで、昔の友人と楽しく過ごしています。笑顔が素敵な福永さん。これからも元気な姿を見せてください。



9月7日(土)

地域の絆が命を守る

地域住民の防災意識を高めようと開催された「六荘地区防災フェア2013」。実行委員長の難波義樹さんは、「災害時には隣近所との助け合いが大きな力となる。この防災フェアを通じて、日ごろから防災意識を高めましょう」と呼びかけました。

会場には、起震車や消防車が登場したほか、消火器や火おこし、人工呼吸など緊急時に使える技術を学ぶ様々な体験コーナーが設けられ、参加者約500人が楽しく防災を学びました。